

岡病防第16号  
平成26年8月28日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平成26年度病虫害発生予報第6号

平成26年8月28日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	やや遅 — — — — —	やや多 並 並 やや少 並多
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	並 並 並 少 やや少
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	— — やや早	少 やや少 やや少
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — 遅 —	やや少 並 やや少 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	やや多 やや少 やや多 やや多
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	やや多 並 並
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	やや少 少 やや少 やや多
キ ク	ナミハダニ	—	やや少

## 1. 普通作物

(水 稲)

### (1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや多

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育はやや遅れている。

イ. 8月18～19日の巡回調査によると、南部地帯の穂いもちの発生圃場率は60.0%で、平年(51.0%)よりやや高かった。

ウ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされているものの、大気的不安定な状態が続くと、にわか雨などによって病勢が進展する可能性がある。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察注意報第2号(平成26年7月30日発表)参照。

### (2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月18～19日の巡回調査によると、発生圃場率は30.3%で平年(41.7%)よりやや低いが、一部病勢の進展した圃場が見られた。

イ. イネの茎数は平年並からやや多であり、やや助長する条件となる。

ウ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

### (3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月18～19日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

### (4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月18～19日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は20.2%で平年(26.1%)よりやや低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。

ウ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

### (5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年並であったことから、本年度の種子の保菌率は平年並であったと考えられる。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 8月18～19日の巡回調査によると、発生圃場率は16.9%で平成(2.8%)より高かった。

イ. 上記の巡回調査における株当たり虫数は0.51頭で平成(0.08頭)より高かった。さらに、一部の圃場では増殖率の高い短翅型雌成虫を確認している。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察注意報第3号(平成26年8月22日発表)参照。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平成より低く、降水量は平成並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平成より低く、降水量は平成並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平成より低く、降水量は平成並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は479頭と平成(1,121.4頭)より少なかった。

イ. 8月18～19日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は1.4%で平成(7.0%)より少なく、発生程度は軽微であった。

ウ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平成より低く、降水量は平成並とされており、発生を助長する条件ではない。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～4半旬の誘殺数は、アオクサカメムシは5頭(平成6.0頭)で平成並、イチモンジカメムシは3頭(平成20.2頭)で平成より少なかった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平成より低く、降水量は

平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

## 2. 果樹

(モモ)

### (1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は1頭で平年(22.4頭)より少なかった。

イ. 8月5日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(6.8%)より低かった。

### (2) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月5日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は35.7%で平年(44.8%)よりやや低かった。発生程度が中程度以上の圃場率は3.6%で平年(14.7%)より低かった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

### (3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生時期 やや早

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 第2世代成虫の推定50%抱卵日は8月24日で平年(8月27日)よりやや早かった。

イ. 7月17日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は0%で、平年(1.6%)より低かった。

ウ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(ブドウ)

### (1) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査における発生圃場率は7.1%で、平年(13.2%)よりやや低かった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

### (2) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査によると、発生圃場率は42.9%で平年(77.0%)より低かったが、8月中旬以降の長期にわたる曇雨天により、発生が拡大している可能性がある。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) さび病

予報内容

発生時期 遅  
発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査によると、発生圃場率は18.3%で平年(3.9%)より高いが、発病程度は低い圃場が多かった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(44.0%)並であった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%で平年(66.1%)並であった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病をやや抑制する条件となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(11.2%)より高かった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%で平年(34.0%)より高かった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 本病はやや乾燥条件下で発生しやすく、雨の当たらない施設栽培で発生しやすい。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月21～22日の巡回調査では平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21～22日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21～22日の巡回調査によると発生圃場率は25.0%で、平年(20.7%)並であった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少  
モザイク病 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬～5半旬の飛来数は308頭で、平年(342.8頭)並であった。

イ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生を認めず、発生圃場率は平年(6.1%)より低かった。

ウ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

エ. 8月21～22日の巡回調査によると、ダイコンのモザイク病の発生圃場率は0%で平年(10.3%)より少なかった。

(2) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)における8月1半旬～5半旬のフェロモントラ

ツブの誘殺数は2頭で、平年(2.8頭)並であった。  
イ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでの発生は認められず、発生圃場率は平年(42.7%)より低かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月22日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生圃場率は25.0%で、平年(16.1%)よりやや高かった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月22日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(20.3%)より低かった。

イ. 8月21日の季節予報によると、9月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。